

平成１７年度 第１回 国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会議事要旨

１ 日 時 平成１７年６月１０日（金） １２時５０分 ～ １５時１５分

２ 場 所 かがしま空港ホテル ２階「カトレアの間」

３ 出席者 学外委員：上治、加賀谷、西田、脇田の各委員
学内委員：芝山、高橋、倉田、萬田、富岡の各委員

４ 列席者 前原、中野の各監事及び田口、國分の各学長補佐

５ 内 容

１）開 会

芝山学長から、平成１７年度第１回経営協議会の開会挨拶があった。

（議事に入る前に、高橋理事の紹介及び事務局からスケジュール及び配付資料の確認が行われた。）

２）前回議事要旨確認

平成１６年度第６回経営協議会の議事要旨について確認された。

３）学長報告

鹿屋体育大学学内外の情勢（平成１７年４月～５月）について、次の事項について報告及び質疑があった。（○は学外委員の発言を、●は学内委員の発言を示す。）

（１）平成１７年度入学試験の結果等について

（２）平成１６年度卒業生（学部学生）の就職状況について

○ 留学生の就職先の追跡調査は行っているのか。

● 特に行っていないが、留学生は帰国後、元の職に戻るケースが多い。また、一部は日本国内の他大学の修士課程又は博士課程に進学するケースが多い。

（３）平成１７年度重点プロジェクト事業経費（学長裁量経費）の学内配分について

（４）平成１７年度科学研究費補助金の交付内定について

（５）学生の競技成績について

○ 大学院在籍の柴田選手の日本選手権水泳競技大会での出場は、会社の所属チームで出場しているのか。

● チーム・アリーナで出場している。

○ 大学の広報を強化する観点から、柴田選手が試合に出場する場合、括弧書きでもい

いから鹿屋体育大学大学院の名称が表に出るように所属会社や水泳連盟へ働きかけも必要ではないか。

- 鹿屋体育大学の名前が出るようにマスコミなど、各方面に主張すべきである。さらに、大学から柴田選手に関する練習風景やスケジュールなど、鹿屋体育大学でなければ分からない情報を主体的に常に発信すべきである。

(6) 北京オリンピック競技別強化拠点施設の認定について

(7) ミズノスポーツメントール賞の受賞について

学長報告に続き、上治委員よりミズノスポーツメントール賞の選考過程の概要報告があった。

(8) JOCスポーツ賞（特別栄誉賞）の受賞について

(9) 平成16年度外部評価結果について

(10)強化種目の選定について

- 「強化種目」という呼称について、オリンピック大会においては、競技の中の種目という取扱いとしている。例えば水泳競技の種目として、800m自由形とされている。本件については、強化競技という呼称が適当と思われる。

(11)その他

・スポーツトレーニング教育研究センター研究協力校等連絡会議の開催について

・第4回鹿屋体育大学の競技力を向上する会の開催について

- 「競技力を向上する会」に講師として参加した。熱気のある会だと感じた。また、選手が積極的に活動報告するなど有意義なものだった。会では、スポーツ競技を行う者は、人間性を高めることも重要であるといったことについて講話をさせていただいた。

- アテネオリンピックでの柴田選手の金メダル獲得以降、他の学生における志気の高まりは感じられるか。

- 志気の高まりは、感じられる。例えば水泳においては、日本選手権決勝に数名の選手が残り入賞するなどいい結果につながっている。また、女子バスケットボール部は昨年の学生選手権の覇者、筑波大学を破り優勝している。他の学生もやればできるという意識を持ち始めたように感じている。

- 柴田選手の活躍や女子バスケットボールの学生選手権優勝など、女子選手の活躍が多く、男子学生の成績が奮わないが、その分析は行っているのか。

- 特に分析は行っていない。

- 女子スポーツの活躍は、鹿屋体育大学だけの傾向だけでなく全国的に注目されており、女子スポーツの活躍を伝えることは広報の面で大事である。

我が国では、一流選手になることやスポーツを極めるためにはお金が必要というイメージがある。豊かな家庭の子どもだけが育つというのでは我が国のスポーツ振興に結びつかない。国立大学として、金メダルが取れる鹿屋体育大学をもっと広報すべきである。また、我が国では女子選手の競技力のレベルが上がっていることから、次の北京オリンピックに向けて女子競技に対する対策を確立していくべきである。

- 日本の競技スポーツの世界では、女子選手の活躍が顕著にみられる。しかし、女性の指導者が少ない。我が国においては、女子の競技者としては育ってはいるが、指導者として育っている女性は少ない。鹿屋体育大学においても女子の指導者としては育っていないように思われる。能力のある者は男性でも女性でも指導者になれるよう取り組んでほしい。
- JOCでは在外指導者研修派遣制度を行っている。これまではオリンピック等で優秀な競技成績を残した選手が対象だったが、3年ほど前から、広くコーチを海外に派遣しようということで、現役時代の競技成績に関係なく、各競技団体からの推薦があれば、指導者として年間3人くらい在外研修が受けられるようになった。鹿屋体育大学では、指導者としてその競技に留めるためにも、また、指導者養成につなげるという観点からも指導者派遣制度を活用し、女性指導者の存在を高める努力していただきたい。
- 企業が学生を採用する際に私自身が注目した点として、例えばレギュラーとして選ばれることが難しい鹿屋体育大学の女子剣道部に、4年間在籍し耐えぬいたことを評価したという話を聞いたことがある。スポーツは、勝敗という狭い範囲だけでなく、自己研鑽を身に付けるという重要な側面も持っている。

4) 議 事

(1) 平成16事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

富岡委員から、資料3に基づき、平成16事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があった。なお、本資料は作成段階の途中であるため、さらに精査を行い、完成をしたおりにお届けしたいの旨の発言があり了承された。

(2) 平成16年度決算に係る財務諸表等(案)について

富岡委員から、資料4に基づき、平成16事業年度決算に係る財務諸表等(案)について説明があった。なお、本資料については作成段階の途中であるため、精査し作成が終わり次第、各委員にお届けしたい。なお、会計監査人及び監事の監査報告を受けた後、6月末までに文部科学省へ提出することとなる説明があり了承された。

(3) 平成18年度鹿屋体育大学概算要求事項(案)について

富岡委員から、資料5に基づき、平成18年度鹿屋体育大学概算要求事項(案)について説明があり、種々意見交換の後了承された。

- 概算要求事項【教育改革】の事項名(ネーミング)は、わかりやすい表現にしたらど

うか。

- 簡潔なテーマ名の表現に訂正して提出したい。
- 平成16年度の決算報告をみると、自己収入の授業料及び入学金検定料の決算額は、定員以上の入学者がいるにも関わらず予算額を下回っているがなぜか。
- 通常、授業料については、一部を前年度中に受領している。平成17年度において授業料の値上げを行ったため、学内手続き関係上、平成17年4月1日以降に授業料を受領したため予算と決算に差が生じた。
- 体育学部合格者は、定員の約1.2倍に比して、大学院の定員に対する合格者の比率が高いのはどうしてか。
- 合格者については、過去の入学辞退率を参考にしながら合格者を出している。定員に対する合格者の比率が高いのは、複数の大学院を受験している受験者の入学辞退がなかったことなどによるものである。

5) その他

(1) 経営協議会学外委員に対する報道関係者からの取材対応について

学長より経営協議会学外委員に対する報道関係者からの取材対応について説明が行われ、本学に関することで取材があった場合は、事前に大学へご一報頂ければ、取材の趣旨、内容等を大学で確認する旨の説明があった。

(2) 国立大学の予算充実について

学長より(社)国立大学協会理事会において審議された「社会の中で国立大学法人に求められている役割・責任について」報告があり、今後も引き続き、国立大学法人を支援頂くよう要請が行われた。